

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：32699

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02984

研究課題名(和文) 英語圏と非英語圏留学：異なる英語環境での英語伸長・使用量・学習意識の縦断的比較

研究課題名(英文) Studying abroad in English-speaking countries and non-English-speaking countries: Longitudinal comparison of English proficiency, amount of language contact, and learning attitudes

研究代表者

田島 千裕 (Tajima, Chihiro)

学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授

研究者番号：60365062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本人大学生の英語習得を主目的とした英語留学が短期化する傾向がある中、非英語圏留学先であるフィリピン短期英語留学に参加した者と伝統的な英語圏の短期英語留学に参加した者の1カ月間の留学成果を比較した。結果どちらに留学した者にも英語能力および英語学習への動機づけやコミュニケーションへの積極性といった情意要因に伸長が現れたことを報告した。異文化感受性については向上が認められず事前教育の必要性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義はこれまで解明されていなかった以下を検証した点である。フィリピンとカナダの1カ月間の短期英語留学を比較した結果：1) フィリピンおよびカナダ留学者の「英語習熟度」に伸長が示された。2) フィリピンおよびカナダ留学者の情意面、すなわち「コミュニケーションへの積極性」と「英語学習への動機」の向上と、「言語不安」の減少が示された。3) フィリピンおよびカナダ留学者の「異文化感受性」の向上は確認されなかった。4) フィリピンおよびカナダ留学者の「英語習熟度」と「異文化感受性」に関係性は確認されなかった。

社会的意義はフィリピンにおいても英語圏と同程度の留学成果を得られる事を示した点である。

研究成果の概要(英文)：This research project compared short-term study abroad outcomes in two types of destinations: English-speaking countries and non-English-speaking countries in terms of English proficiency, amount of language contact, and learning attitudes. The study reported, by comparing 4-week short-term study abroad outcomes, learners studying in the English-speaking countries and non-English-speaking countries, on average, both made significant increase in their English proficiency and developed learning attitudes, such as motivation, willingness to communicate, and lowered language anxiety.

In addition, this study confirmed that development of intercultural awareness was not automatic, and implied that for both destinations, learners need to have access to pre-departure education to enhance intercultural awareness before going abroad.

研究分野：教育プログラム混合型評価研究

キーワード：短期留学成果 英語習熟度 異文化感受性 モチベーション コミュニケーションへの積極性 言語不安 評価研究 混合研究法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

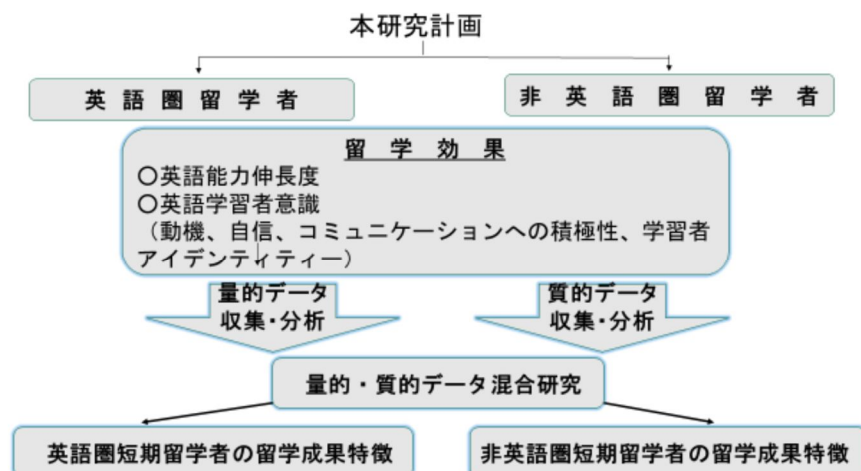
1. 研究開始当初の背景

申請者は、英語圏への4ヶ月間に渡る中期英語留学を研究対象として、英語教育と第二言語習得論を基盤とした研究を発表している(田島 2013)。研究手法は量的アプローチと質的アプローチを組み合わせた混合研究法を用いた。具体的には、4ヶ月間の英語留学の直接的効果として、英語能力の伸長を示すとともに、情意要因である英語学習への動機づけ、英語能力への自信、コミュニケーションへの積極性等の伸長を報告した(田島 2013)。さらに、留学中の英語コミュニケーションの量を左右したのは、英語能力ではなく、英語能力への自信や英語コミュニケーションへの積極性といった情意要因だったこと、対して、言語不安と呼ばれる英語使用に対する心配感や、日本の家族や生活を思うホームシック度が、留学中の英語コミュニケーション量と(負の)相関を示したことも報告した(田島 2013)。現在の申請者の研究対象は、1ヶ月程度の英語圏への短期英語留学である。1ヶ月の短期留学の留学成果として、英語学習への動機づけ、英語能力への自信、コミュニケーションへの積極性等の情意要因に伸長が現れたことを見出している(未発表)。さらに大学初年次における1ヶ月の短期留学が、その後2年次での英語学習の動機づけとして継続的に作用したことも明らかにしている(未発表)。

上記のこれまでの研究成果をもとに、本研究は、まだ十分に解明されていない英語圏への短期留学と非英語圏への短期留学との比較調査を行う。異なる英語使用環境における学習者の英語伸長度、英語コミュニケーション量、および学習者意識の変容を包括的に比較することが主目的であるが、英語を母語としない者同士が英語を共通言語として使用する環境が英語学習者に与える影響を探索的に調査することも研究目的の一つである。

2. 研究の目的

本研究は、日本人大学生の短期英語留学について、英語圏にて留学を行った者と、非英語圏にて留学を行った者を縦断的に比較するものである。このため本研究では、カナダに短期留学に出かけた者と、フィリピンに短期留学に出かけた者を対象に、英語能力の伸長度と英語コミュニケーション量、加えて英語学習に関する学習者意識の変容を比較分析することで、異なる英語環境での留学体験が、英語学習にもたらす影響を明らかにする。加えて、非英語母語話者同士が共通言語として英語を使用する環境、つまり English as a Lingua Franca の観点から、この言語環境での英語学習について探索的調査を行う。



3. 研究の方法

英語圏留学生および非英語圏留学生の、英語能力伸長度と英語コミュニケーション量

1) 英語能力の伸長：双方の留学生に対し、英語習熟度テストを留学前と留学後に実施し、統計処理し、英語能力に伸長の差が見られるかを検証する。

2) 英語コミュニケーション量：双方の留学生に対し、留学中の英語コミュニケーション量を測定し統計処理し、コミュニケーション量に差が見られるかを検証する。

英語圏留学生および非英語圏留学生の、学習者意識の変容

3) 英語学習への意識の変容：双方の留学生に対し、学習動機、英語への自信、英語コミュニケーションへの積極性、他英語学習や英語使用に対する意識調査を質問紙を用いて実施し、統計処理結果から特徴的な差が見られるかを検証する。

質的データ収集

4) 英語圏留学生および非英語圏留学生からの質的データ収集：量的データ分析結果に解釈を加えるために質的データを収集・分析する「説明的混合研究法」の手法を用いるため、量的データ分析結果を基に、収集する質的データを設定する。ただし相手が英語母語話者、非英語母語話者かでコミュニケーションへの意識が異なるかを調査するために、予め半構造インタビューを実施することを予定している。加えて、非英語圏留学生に対しても、予めコミュニケーション行動に関する質的データを収集することを予定しており、探求的手法を用いることで新たな研究課題を得る予定である。

量的・質的データ分析・統合

5) 英語圏留学生および非英語圏留学生から収集した量的・量的データの分析・統合：量的データ分析結果を、質的データを用いて解釈・説明することで調査結果を導く。また、質的データを基に探求的調査を行うことで、新たな研究課題を得る。

4. 研究成果

(1) 研究成果は主に3本の学術論文にて報告した。まず、フィリピンへの1カ月の留学成果としては、量的および質的分析結果を混合型研究としてTajima (2018)に報告した。具体的には、英語能力に伸長が示された。加えて、情意面である「学習動機」と「コミュニケーションへの積極性」にも伸長が示された。一方で「言語不安」は減少した。

質的データからは、「英語学習動機付け」の要因として、フィリピンでのフィリピン人教員とのマンツーマンの英会話が挙げられた。つまり、フィリピン人教員は英語母語話者でない場合が多く、英語を第二言語として習得した者であるが、非英語母語話者でありながら英語教員として活躍する教員に親密感と尊敬の念を抱き、このことが自身の「英語学習動機付け」として働きかけたことが調査参加者より語られた。「言語不安」が軽減された点についても、フィリピン人教員とのマンツーマン英会話が寄与したことが質的データにより示された。加えて、マンツーマンでの英会話により個人的な関係性やラポールの形成に繋がり、これがフィリピン人教員との「コミュニケーションへの積極性」へとつながったことが調査参加者より語られた。したがって、情意面である「学習動機」、「コミュニケーションへの積極性」、「言語不安」の向上には、フィリピン人教員とのマンツーマンのレッスンが大きな要因であったことが、質的データにより明らかになった。

(2) カナダへの1カ月の留学成果としては、量的分析結果をTajima(2019)に報告した。結果は、フィリピンへの短期留学成果と同様であった。つまり、英語能力に伸長が示された。加えて、情意面である「学習動機」と「コミュニケーションへの積極性」にも伸長が示された。一方で「言語不安」は減少した。

(3) カナダへの1カ月の留学成果の質的結果については、Tajima(2020)に報告した。まずは、質的データを質的データ分析ソフトを用いて分析し、出発前の語りと、帰国後の語りを比較した結果、帰国後の方が出発前よりも、より肯定的な単語を用いて留学先のカナダやカナダの人々について語ったことを報告した。これにより、肯定的な留学体験が語りたい内容を増加させたことが示唆された。

加えて、Tajima(2019)で報告した英語能力の伸長に関する量的結果を用いて調査参加者を4つのケース(グループ)に分け質的データを分析した。分けたのは以下の4ケースである：上級英語習熟度グループ、中上級英語習熟度グループ、中級英語習熟度グループ、初級英語習熟度グループ。各ケースの出発前と出発後の半構造インタビュー回答を分析した結果、「異文化感受性」については英語習熟度に関わらず向上が見られなかった。つまり、英語能力が上級でも初級でも、留学体験により「異文化感受性」が向上することはなかったのである。このことは留学体験による「異文化能力」向上の難しさ、および、「異文化能力」向上に向けた留学前の事前教育の必要性を示している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Chihiro Tajima	4. 巻 なし
2. 論文標題 Language and Cultural Learning in a Short-Term Study Abroad: An Investigation of Japanese Sojourners in Canada	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In Goossens R., Murata A. (eds). Advances in Cross-Cultural Decision Making	6. 最初と最後の頁 572-577
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Chihiro Tajima	4. 巻 なし
2. 論文標題 Language Training in the Philippines: Measuring and Exploring Learner Experiences	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 In Nazir S., Teperi AM., Polak-Sopiska A. (eds). Advances in Human Factors in Training, Education, and Learning Sciences	6. 最初と最後の頁 430-442
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Chihiro Tajima	4. 巻 58
2. 論文標題 Negative Affects of Second Language Contact Abroad: Quantitative Phase	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 111-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chihiro Tajima	4. 巻 なし
2. 論文標題 A Mixed Methods Case Study: Japanese Sojourners' Intercultural Awareness	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 In Karwowski, W. et al. (Eds.) Advances in Physical, Social & Occupational Ergonomics	6. 最初と最後の頁 515-521
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Language and Cultural Learning in a Short-Term Study Abroad: An Investigation of Japanese Sojourners in Canada
3. 学会等名 The 8th International Conference on Cross-Cultural Decision Making, 2019 International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics and the Affiliated Conferences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Language Training in the Philippines: Measuring and Exploring Learner Experiences
3. 学会等名 The 5th International Conference on Human Factors in Training, Education, and Learning Sciences, 2018 International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics and the Affiliated Conferences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 手続きダイアグラムとジョイントディスプレイでみる混合型研究例 - 基本型から応用型デザインまで -
3. 学会等名 第2回混合研究法コロキウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 MMRオープンフォーラム - 混合研究法と実践、その展望と課題
3. 学会等名 第4回日本混合研究法学会年次大会 (The 4th JSMMR Conference 2018) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 A Phenomenological Study Using Mixed Methods: Search for the Common Experiences of Japanese Students Learning English in the Philippines
3. 学会等名 第4回日本混合研究法学会年次大会 (The 4th JSMMR Conference 2018)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 英語教育学における混合研究法の実践
3. 学会等名 平成29年度学習院女子大学学会講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Language Training in the Philippines: Measuring and Exploring Learner Experiences
3. 学会等名 9th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE 2018) and the Affiliated Conferences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 Intercultural Communication: The Future of English Education
3. 学会等名 国際基督教大学主催 富山真知子教授最終講義記念英語教育シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Paul Horness, Chihiro Tajima, Mitsuyo Toya
2. 発表標題 Discussing Issues in Study Abroad
3. 学会等名 The JALT 2016 Pan SIG International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Experience of a Disabled Student Studying Abroad
3. 学会等名 The JALT 2016 Pan SIG International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Investigating Language Complexity with Mixed Methods: The Conflict Between Language Learners' Self-Evaluation and Performance
3. 学会等名 The Mixed Methods International Research Association 2016 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Transformative Parallel Mixed Methods Design
3. 学会等名 第2回日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Building Intercultural Awareness, Independence, and Confidence to Foster Willingness to Communicate
3. 学会等名 第31回異文化コミュニケーション学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Paul Horness, Chihiro Tajima, Mitsuyo Toya
2. 発表標題 Highlighting Issues in Study Abroad
3. 学会等名 JALT 2016: 42nd Annual International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 質的×量的=混合研究法をやってみよう
3. 学会等名 第5回ナラティブ・コロキウム(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 混合型事例研究
3. 学会等名 The Mixed Methods International Research Association 2017 Asia Regional Conference・日本混合研究法学会第3回年次大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 A Phenomenological Study Using Mixed Methods: Search for the Common Experiences of Japanese Students Learning English in the Philippines
3. 学会等名 The Mixed Methods International Research Association 2017 Asia Regional Conference・第3回日本混合研究法学会年次大会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Exploring English Learning and Contact in a Lingua Franca Environment: A Mixed Methods Study of Learners in the Philippines
3. 学会等名 第56回大学英語教育学会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田島千裕
2. 発表標題 英語教育分野における混合研究法の有効性
3. 学会等名 第23回日英・英語教育学会研究大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 Mixed Methods Integration Strategies
3. 学会等名 University of Michigan, Mixed Methods Program, Designing and Conducting a Mixed Methods Dissertation or Thesis(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chihiro Tajima
2. 発表標題 A Mixed Methods Case Study: Japanese Sojourners' Intercultural Awareness
3. 学会等名 11th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE 2020) and the Affiliated Conferences (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----